

ニホンアカガエルの産卵観察

網代春男（千葉市緑区）

産卵の観察

今年は1月27日と2月2日の2回、夜の観察をしました。

1月27日、産卵が始まっていることを知り急遽観察会をすることにし、お知らせしましたが、急なことであり、参加は田中先生と私の2人でした。夜8時過ぎ、カヤネズミの田んぼ、緑米の田んぼからクックッ、キョッキョッキョッと力強い鳴き声がします。といっても鳴のうが発達していないので地味なものです。抱接しているものも3つ4ついましたが殆どは雄で畦の方を向いて手足を伸ばしポケーと浮いています。昼間のカウントで93個の卵塊があった大塚さんの湧水のある田んぼでは、たくさんのカエルが畦の方を向いて浮いていました。しかも見ている間にどんどん増えてきたようです。畦から田んぼに入るものは1匹も見かけません。いつの間にか田んぼの底から沸いてきたと思わせる状況でした。数えたら、この田んぼだけで71匹のカエルがいましたが抱接しているのは3組くらいです。65匹の雄は雌が出てくるのを鳴きながら待っているようでした。鳴くと月明かりの中、小さな水紋が両頬から広がります。話に聞くカエル合戦はただ一箇所一匹の雌に雄4匹が重なり合って争っているのが見られましたが、他の抱接しているペアは雄に襲われることもありませし、雄同士争う姿もありませんでした。産卵するところを見たいと9時30分までいたのですが産卵は見られませんでした。ニホンアカガエルは雄の数が圧倒的に多いのか？雌はもっと遅い時刻に出てくるのか？何時産卵するのか？など疑問が残りました。

(20:10 気温 4.3 水温 8.3 (古代米たんぼ) 21:30 気温 2.7 水温未計測)

2月2日、2回目の観察会の日は所用があって遅れて駆けつけましたが、全くカエルは出てこず、空振りということで、皆さん引き上げる寸前のところでした。2月1日の卵塊数の調査で昨年(2月19日時点)を上回る卵塊数だったので、今年の産卵は終わったと思えました。月は煌々と照り、氷点下の気温、凜とした、普段とは異なる下大和田の谷津田でした。折角お越しいただいた唐沢先生はじめ参加者の方々にはお気の毒な結果となりましたが、来年の観察会に期待することにして終了しました。

(20:05 気温 -3.2 水温 4.1 20:50 気温 -4.3 水温未計測 気温水温計測は田中先生)

卵塊数の調査

1月27日と2月1日の2回カウントしました。

	1月27日	2月1日
Y P P 田んぼ	計 58個	計 130個
内訳		
カヤネズミ田んぼ	5個	22個
緑米田んぼ	33個	72個
農林1号田んぼ	15個	15個
平沼さん田んぼ	0個	7個
右の田んぼ脇水路	5個	14個
大塚さんの田んぼ	計 98個	計 151個
内 湧水のある田んぼに	93個	141個

- * 昨年はマイ田んぼに118個(2月19日時点)でしたから、例年より早い産卵でした。
- * 2月中頃にも卵塊が幾つかありましたから2月1日より後に産卵したカエルもいたようです。

長谷川雅美先生(東邦大学教授 理学部地理生態学研究室)に疑問点を伺いました。

ニホンアカガエルの雌雄比は1:2くらい。

産卵は明け方が多い。

雌の産卵は1回だが、雄は複数回抱接する。





里山たんけんレポート

第 86 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2007年3月4日(日)晴れ

花もたくさん咲き出し、オオイヌノフグリ・キュウリグサノのブルー、タンポポ・タガラシの黄色、ホトケノザ・ヒメオドリコソウのピンク、タネツケバナ・ナズナの白などが畦や土手、道端を賑わせていました。山にはタチツボスミレも咲いていました。冬を成虫で越したキチョウ、キタテハ、ムラサキシジミも暖かさに誘われ飛び出しました。枯れ枝に擬態したようなホソミオツネトンボも林縁にいました。動かなければ見つけれない姿ですが4月ごろ空色に変身します。赤い鳥ベニマシコモ姿を見せてくれました。カシラダカはまだたくさんいましたが、アオジ、ツグミは繁殖地へ帰り始めたのか少なくなっているようでした。観察会終了直後にはアオサギが田んぼにやってきましたり、オオタカも舞ってくれました。20種類を超える鳥が出ました。田んぼはメダカ、アカガエルのオタマジャクシ、ヨコエビ、ザリガニ、カワニナ、マルタニシ、オオタニシと春の盛りの様子でした。でも、オタマジャクシは卵塊の数から推し量ると極端に少ないように思えました。どこにいったのでしょうか。ばかばか陽気で汗ばむほどの谷津田散策でした。

(参加者 大人6名 小人1名; 報告:網代春男)

第 70 回 下大和田 YPP「味わおう！春の谷津田」

2007年3月18日(日)晴れ

朝は少し冷え込んでいたのですが暖かな日差しに恵まれて恒例の野草を食べる会が行われました。最初にみんなで谷津を散策して野草さがしです。ニワトコ、セリ、タネツケバナ、ヨモギ、セイタカアワダチソウ、カラスノエンドウなど、暖冬の影響で例年より生育が早いようです。味わいはやはり天ぷらが一番。揚げたてをほおばると柔らかな甘味や苦味が混じった春の味が口に広がります。「お～いし～！」。初めての人も毎年楽しんでいる人も感激でした。ヨモギ団子や野草入りの汁ものも味わいました。今回のお楽しみはもう一つ。YPPの活動を通じて知りあった2人(中村彰宏さん・真紀さん)が2月にめでたくゴールイン。そのお祝いをこの谷津田でしようというYPPならぬYWP(谷津田ウェディングプロジェクト)を挙行了しました。野草のティアラを付けた新郎・新婦が鎌!で手作りケーキに入刀。小学生のバイオリン生演奏、記念穂田流域通貨の発行、スペシャル谷津田ウルトラクイズ、記念品の手作り竹笛ペンダントなど工夫の数々でお二人をお祝いし、参加したみんなが幸せな気分になりました。



ケーキに鎌で入刀

(参加者 大人27名 小中学生8名; 報告:高山邦明)

第20回 小山町自然観察会

2007年3月31日(土)くもり

暖冬に加え、このところの暖かさで3月というのにもう春本番の気配。散策した谷津では30種類近い草花が咲き、コブシやクロモジなど10種類近い木々が花を付けていました。驚くことにカワトンボが既に羽化!記録的な早さです。アカガエルに加え、ヒキガエルも孵化して真っ黒で小さなオタマジャクシが田んぼで群れかたまっていました。シュレーゲルアオガエルの鳴き声が谷津に響き渡り、ウグイスの上手な歌声に加え、旅立ち前のアオジやツグミがさえずりの練習をしていてとてもにぎやかです。

観察のあと、ザリガニつりをしました。竹のさおに糸を付け、餌はさきイカ。復活させた田んぼに作った小さな池に糸を垂らすとすぐにザリガニが食いついてきます。そっとうまく引き上げるのが腕の見せどころ。最初はすぐに逃げられてしまったのですが、慣れてくると次々と釣り上げてあっという間にバケツがザリガニでいっぱいになりました。



ザリガニつり

(参加者 大人7名、小学生4人; 報告:高山邦明)

谷津田・季節のたより

下大和田

3月20日(火) ウグイスやキジが鳴き、モンシロチョウが舞う。田んぼにアズマヒキガエルの卵塊を確認(石橋)

3月31日(土)ベニマシコは全身が真っ赤に、カシラダカも頭が黒くなっていた。池からオシドリのカップルが飛び立つ(網代)

小山町

3月13日(火) アズマヒキガエルの卵塊を確認。抱接している親の姿も見られた。フデリンドウが咲く(齊藤)

3月22日(木) 13日に放棄田の一角に作った池にアズマヒキガエルが産卵したことを確認(齊藤)

3月28日(水) シュレーゲルアオガエルの産卵を確認(齊藤) 羽化したばかりのカワトンボ(小山 2007.3.31 : 高山)

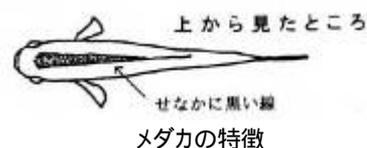
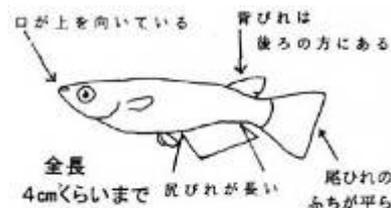


谷津田いきもの図鑑 No.4 「メダカ」

メダカは昔から日本人にとって最も身近な生きもので、改めて取り上げられることはあまりなかった。それが1999年に当時の環境庁により絶滅危惧種に指定されたおかげで、このちっぽけな生きものは一躍注目されることになった。「今の日本はメダカすら住めなくなったのか」と、センセーショナルな形でマスコミ報道され、「メダカが消える日」なる本がベストセラーにもなった。皮肉なことにメダカが貴重種とされたことで、メダカは乱獲される対象になってしまった。

メダカが減少した最大の理由は、田んぼの形態が変わったことにある。メダカは水温が25℃を超える頃田んぼに入って産卵し、ふ化した稚魚は田んぼに生息するミジンコなどを食べて成長する。冬が近づき水温が低下すると、メダカは水路に戻り、障害物や泥のなかに潜って越冬する。すなわちメダカにとって田んぼと水路は、一体のものとして生活史に組み込まれている。

ところが機械化による効率的米作りが奨励され、多くの田ん



メダカの特徴

(こだわってメダカってカードより)



田んぼにできた水路を上るメダカの群れ
(2007年4月1日 下大和田)

ぼは、冬に水を抜いて機械が入り易くする乾田化型圃場整備が進み、水路と田んぼに段差ができてしまった。そのためにメダカは田んぼと水路を自由に行き来することができず、子孫を残すことが難しくなってしまった。

下大和田の谷津田は田んぼと水路に段差がないため、生きものたちは自由に行き来できる。ちょうどいまの季節、流れに逆らって田んぼを目指すメダカたちを目にすることができる。ここは、メダカだけでなく多くの生き物たちにとってはまさに理想郷なのである。

谷津田での米作りは効率的ではなく、労力の割に収穫は少ない。しかしメダカを始め多くの生き物たちを育むという観点からすれば、最も効果的な場所ではないだろうか。メダカの棲めないような環境が、決して人間にも心地よい場所ではないということに、多くの人気づいている。メダカに代表されるちっぽけな生き物のことを考えられるか否かが、人類の将来を決めてしまうのかもしれない。(田中正彦)

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPの活動は大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター(TEL&FAX:043-223-7807 E-mail:hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。

・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。

・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

第71回・72回 下大和田 YPP「みんなでわいわい！田起こし&田植え」

いよいよ今年の米づくりのスタートです。まず4月は田起こし、そして5月にコシヒカリの田植えをします。大人から子どもまでみんなでわいわいにぎやかに作業をしましょう。ウグイスの音が響きわたる谷津では、足下からカエルが飛び出したり、土の中からザリガニが出てきたり、ワクワクの驚きいっぱいです。春爛漫の田んぼで気持ちのよい汗を流しませんか？

日時: 田起こし 2007年4月28日(土)10:00~14:00

田植え 2007年5月13日(日)10:00~14:00 *いずれも小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 長靴(泥深いので長め)、軍手、弁当、飲み物、敷物など。

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば環境情報センター(ホームページ <http://www.ceic.info/>)

共催: ちば・谷津田フォーラム(ホームページ <http://yatsuda.2.pro.tok2.com/>)

第21回・22回 小山町自然観察会と田んぼの作業

4月の定例観察会は千葉県生物学会の自然観察会と合同で行います。様々な生き物の専門の先生がいらっしやいますのでいろいろなお話が伺えます。5月6日は今年の田植えに向けて古代米の苗代づくりをします。米づくりを最初から体験するよい機会ですので、ぜひいらして下さい。

日時: 自然観察会 2007年4月22日(日)10:00~12:30

苗代づくり 2007年5月6日(日)10:00~12:30 *いずれも小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場

持ち物: 長靴(泥深いので長め)、軍手、筆記用具など

参加費: 100円(資料代など)

第88回 下大和田4月の谷津田観察会とごみ拾い

花も、虫も、鳥も、命を謳歌しています。新緑に包まれた谷津田を散策しましょう。

日時: 2007年5月6日(日)10:00~14:00 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場バス停に10:00(同上)

持ち物: 筆記用具、弁当、水筒、長靴、帽子、敷物、軍手、ゴミ袋など

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム

共催: ちば環境情報センター

編集後記 *4月を迎える前に谷津田では春の草花が出揃いました。3月にカワトンボの姿を見たことはこれまでになかったと思います。今年の記録的な暖冬の影響を受けてのことでしょう。毎年繰り返される生きものたちの営みは、同じように単調に繰り返されることに安堵を感じます。スポーツの新記録はうれしいのですが、自然のリズムが崩れた新記録は心穏やかではありません。願わくは今年の暖冬が地球の温暖化と無関係であってほしいです。(高山)